



広がる学びへ

見えないだけ

半礼 麗子

教科書P16~17
見えないけれど確かにあるものを捉えた詩を味わおう。

詩を繰り返し読み、漢字を練習しよう。

漢字 () に読みを書き、漢字をなぞりましょう。

浮がぶ (う かぶ) (おく)

語句 次の語句の意味を、辞書で調べて書きなさい。

はぐくむ 養い育てる。

垣根 (かきね) 家の周囲や庭などの囲いや仕切り。

待ちかねる 今か今かと待つ。



17 ③ 「あんなに確かに在るもの」とあるが、どこにどんなものが「在る」というのか。次の表に詩の言葉を入れなさい。

空の上	もっと青い空
波の底	() もっと大きな海
胸の奥	優しい世界
次の垣根	() 美しい季節
少し遠く	() 新しい友だち

「見えない」ものについての作者の思いを味わおう。

2 17 ③ 「まだここからは見えないだけ」の部分にはどんな思いがこめられているか。次から一つ選びなさい。(ウ)
ア まだ見ぬ世界には、これまで経験しなかった厳しさが待っている。十分な心がまえをしてほしいと思ふ。
イ 現実にはありなくとも、想像の中で広がりのある素晴らしい世界を築いて、独創性を磨いてほしいと思ふ。
ウ 今はその存在に気づかなくても、これから新しい世界に出会う日がくることに希望と喜びを感じてほしいと思ふ。
エ この先に待っている試練は自分の努力で乗り越えていけるので、勇気を出して立ち向かってほしいと思ふ。

ワンポイント解説

1 17 ③ 「あんなに」の指す内容は前の連名体です。それぞれ一行がひとすじのままとまりになっており、各まとまりの一行目には「()」()「()」一行目には「()」()が描かれています。また、16 ②、③、④では対句が、それ以降では体言止めが、



光2 1

水ぬるむ

高階純一

春がきて凍っていた顔もとけてきたチューリップのように並んだ笑顔世界にはまだまだいっぱい素晴らしいことがあるそれは教えてくれているようによかったね生きていて

P.5



2 「見えないもの」として「もっと美しい世界」「もっと大きな海」「優しい世界」「美しい季節」「新しい友だち」が挙げられています。これらは、全て肯定的で明るい未来を予感させるものとなっています。



広がる学びへ

アイスプラネット

根名 隆

教科書P18~20
「ぐうちゃん」と「僕」の関係や心情を捉えよう。

全文を読んであらましをつかみ、辞書で調べよう。

「ぐうちゃん」の言動と「僕」の家族についてまとめなさい。

アナコングの話

三メートルのナマズの話

北極の(氷)の惑星の話

話の証拠は、写真を(紙焼き)にしたら見せてあげると言った。

「また(外国)をさらふらしてくるよ」と言った。

外国から「僕」あてに手紙と写真を送る。



ぐうちゃんの生き方と、広い世界について思い巡らそう。

ぐうちゃんに対して、

(1) 母がどう思っているかわかる、ぐうちゃんに向けた母の言葉を教科書19ページから探し、初めの四字を書き抜きなさい。(記号も一字分)

(2) 「僕」はどう思っているか。教科書19ページ14行目までわかる「僕」の気持ちを、理由を含めて三十文字以内で書きなさい。教科書中の言葉を使い、「……」の形にすること。

19 例

ぐう	ちゃん	の	話	は	お	も
しろ	い	の	で	ぐ	う	ち
んの	こ	と	が	大	好	き
だ						

19 例

ぐう	ちゃん	が	大	好	き	だ
----	-----	---	---	---	---	---

19 例

ぐう	ちゃん	が	大	好	き	だ
----	-----	---	---	---	---	---

1 ぐうちゃんに対する気持ちの変化を捉えよう。これを聞いて「僕」はどう感じたか。一つ選びなさい。(エ)ア ばかばかしいので聞かない。イ 蛇の話はいやだな。ウ とくづく知ってる話だな。エ 幼株だけ聞かない。

母の思いがわかる「ぐうちゃん」に向けた母の言葉を教科書19ページから探し、「という」設問の条件に注意します。文章中には「怒る」という言葉もありますが、これは「母の言葉」ではありません。「ぐうちゃん」に向けた母の言葉は19 ⑥「ちゃんど……」です。この言葉から、直前にあるような「気に入らない」という母の思いがわかります。

ワンポイント解説

母の思いがわかる「ぐうちゃん」に向けた母の言葉を教科書19ページから探し、「という」設問の条件に注意します。文章中には「怒る」という言葉もありますが、これは「母の言葉」ではありません。「ぐうちゃん」に向けた母の言葉は19 ⑥「ちゃんど……」です。この言葉から、直前にあるような「気に入らない」という母の思いがわかります。

漢字 漢字の読みを書きましよう。
怒る (おこる) ① 郊外 (こうがい) ② 赴任 (ふにん) ③ 唯一 (ゆいいつ) ④ 嫌 (いや) ⑤ 怪しい (あやし) ⑥ 脚 (あし) ⑦ 扱 (あつかい) ⑧ 勘違い (かんちがい) ⑨ 逃げる (にげる) ⑩ 撮る (とる) ⑪ 吹く (ふく) ⑫ 雄弁 (ゆうべん) ⑬ 突然 (とつぜん) ⑭ 慌てる (あわてる) ⑮ 大股 (おおまた) ⑯ 封筒 (ふうとう) ⑰ 貼る (はる) ⑱ 詰まる (つままる)

語句 次の語句の意味を、辞書で調べて書きなさい。
精密 細かい点まで正確なこと。
地行 蛇のように曲がりくねって進むこと。
口実 表向き理由。言い逃れの言葉。
極端 ひどくかたよっていること。

短文 次の語句を使って短文を書きなさい。
いかにも ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

P.7

19 ⑥ 「僕はぐうちゃんが好きだ。」
ぐうちゃんの話は文句なしにおもしろいのだ。(理由) ぐうちゃんの話はおもしろいので、ぐうちゃんのことを大好きだ。(30字)
気持ちをきかれていますので、「大好き(だ)」を必ず用います。

1 20 ① 「話のテーマがちょっと幼稚すぎる」とは、この話の「おもしろさ」だ、という感想に

光2 2

P.6

漢字を確認しよう

漢字 (一) に読みを書きましよう。

① 雌雄 (しゅう) (だんが) 封鎖 (ふうさ) 弾劾 (だんが) 勃発 (はつぱつ) 室素 (しつそ) (かまもと) 逸話 (いつわ) 逝去 (せいきょ) 満喫 (まんきつ) (いっかつ) 喚起 (わんき) 福音 (ふくおん) 仮病 (けびょう) (ふあい) 歩合 (ふあい) 黄砂 (おうさ) 境内 (けいだい) (じゅうとくぶ) 拾得物 (じゅうとくぶ) 拾万円 (じゅうまんえん)

1 「漢字の読み」——線部の漢字の読みを書きなさい。

① 吹奏楽の練習に行く。
② 江戸時代の封建制度。
③ 封鎖をかける。
④ 雄大な自然に感動する。

① フルートを吹く。
② 封鎖をかける。
③ 雄大な自然に感動する。
④ 雄大な自然に感動する。

① 吹奏楽の練習に行く。
② 江戸時代の封建制度。
③ 封鎖をかける。
④ 雄大な自然に感動する。

2 「意味」——線部の言葉の意味を、あとから選びなさい。

① 大臣の逝去が伝えられる。
② 休日に大自然を満喫する。
③ 作業に当たって注意を喚起する。
④ 世界では内戦が勃発している。
⑤ 賞をもらった俳優が脚光を浴びる。

① 十分に味わうこと。
② 急に起こること。
③ 呼び起すこと。
④ 敬う相手の死。
⑤ 死者の生前をしのぶこと。

オ 人からの注目。
カ 死者の生前をしのぶこと。
ク 人が急にいなくなること。
キ たくさんあること。

3 「漢字」——線部の熟語の漢字が正しい場合は、(一) に○を、間違っている場合は熟語全体を正しく直して書きなさい。

① 買ひ物の勘定を済ませる。(勘定)
② 両チームが激突する。(激突)
③ 映画の脚本を作る。(脚本)
④ 犯人は逃走したよた。(逃走)
⑤ 会計係が収使を確認する。(収支)

4 「複数の読み」——線部の漢字には別の読みがある。別の読みを使った熟語を一つずつ書きなさい。

① 神社の境内に入る。(例 国境)
② 仮病を使うのはよくない。(例 仮面)
③ 黄砂が日本に飛来する。(例 卵黄)

漢字の読み

① 雌 左側の「此」を「比」にしない。
② 勃 「止」を「止」にしない。
③ 効 「刻」と混同しない。
④ 室 部首は「宀」に属する。「室」は「かえる・かわる」の意。
⑤ 喝 「渴」と混同しない。「喝」は「よぶ・さげすぶ」「換」は「かえる・かわる」の意。
⑥ 喚 「換」と混同しない。「喚」は「よぶ・さげすぶ」「換」は「かえる・かわる」の意。

ワンポイント解説

1 線部の漢字の読みは、必ず例文全体を読んで考えましよう。例文は、④の「いなり」が「弱音」だけではない。「いなり」が「弱音」をほく「いなり」が「弱音」だけではない。「いなり」が「弱音」をほく「いなり」が「弱音」だけではない。

2 「勘定」と書きましよう。④ 「選ばれる」と「走る」で「走」を「走」と書きましよう。④ 「選ばれる」と「走る」で「走」を「走」と書きましよう。

3 「勘定」と書きましよう。④ 「選ばれる」と「走る」で「走」を「走」と書きましよう。

ワンポイント解説

1 「枕草子」の第5段の文章を音読し、内容をつかましよう。

2 「あけぼの」は「明け方」のこと。

3 「あけぼの」は「明け方」のこと。

4 「あけぼの」は「明け方」のこと。

5 「あけぼの」は「明け方」のこと。

1 「枕草子」の第5段の文章を音読し、内容をつかましよう。

2 「あけぼの」は「明け方」のこと。

3 「あけぼの」は「明け方」のこと。

4 「あけぼの」は「明け方」のこと。

5 「あけぼの」は「明け方」のこと。

6 「あけぼの」は「明け方」のこと。

7 「あけぼの」は「明け方」のこと。

8 「あけぼの」は「明け方」のこと。

9 「あけぼの」は「明け方」のこと。

10 「あけぼの」は「明け方」のこと。

11 「あけぼの」は「明け方」のこと。

12 「あけぼの」は「明け方」のこと。

13 「あけぼの」は「明け方」のこと。

14 「あけぼの」は「明け方」のこと。

15 「あけぼの」は「明け方」のこと。

16 「あけぼの」は「明け方」のこと。

17 「あけぼの」は「明け方」のこと。

18 「あけぼの」は「明け方」のこと。

19 「あけぼの」は「明け方」のこと。

20 「あけぼの」は「明け方」のこと。

枕草子

広がる学びへまごそうし 枕草子

清少納言

教科書 P32-33 作者のものの見方に注目して、内容を読み取ろう。

1 「枕草子」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

2 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

3 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

4 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

5 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

6 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

7 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

8 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

9 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

10 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

11 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

12 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

13 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

14 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

15 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

16 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

17 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

18 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

19 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

20 「あけぼの」について、教科書 P33 ページを参考にしまよう。

ワンポイント解説

1 「あけぼの」は「明け方」のこと。

2 「あけぼの」は「明け方」のこと。

3 「あけぼの」は「明け方」のこと。

4 「あけぼの」は「明け方」のこと。

5 「あけぼの」は「明け方」のこと。

6 「あけぼの」は「明け方」のこと。

7 「あけぼの」は「明け方」のこと。

8 「あけぼの」は「明け方」のこと。

9 「あけぼの」は「明け方」のこと。

10 「あけぼの」は「明け方」のこと。

11 「あけぼの」は「明け方」のこと。

12 「あけぼの」は「明け方」のこと。

13 「あけぼの」は「明け方」のこと。

14 「あけぼの」は「明け方」のこと。

15 「あけぼの」は「明け方」のこと。

16 「あけぼの」は「明け方」のこと。

17 「あけぼの」は「明け方」のこと。

18 「あけぼの」は「明け方」のこと。

19 「あけぼの」は「明け方」のこと。

20 「あけぼの」は「明け方」のこと。

1 「あけぼの」は「明け方」のこと。

2 「あけぼの」は「明け方」のこと。

3 「あけぼの」は「明け方」のこと。

4 「あけぼの」は「明け方」のこと。

5 「あけぼの」は「明け方」のこと。

6 「あけぼの」は「明け方」のこと。

7 「あけぼの」は「明け方」のこと。

8 「あけぼの」は「明け方」のこと。

9 「あけぼの」は「明け方」のこと。

10 「あけぼの」は「明け方」のこと。

11 「あけぼの」は「明け方」のこと。

12 「あけぼの」は「明け方」のこと。

13 「あけぼの」は「明け方」のこと。

14 「あけぼの」は「明け方」のこと。

15 「あけぼの」は「明け方」のこと。

16 「あけぼの」は「明け方」のこと。

17 「あけぼの」は「明け方」のこと。

18 「あけぼの」は「明け方」のこと。

19 「あけぼの」は「明け方」のこと。

20 「あけぼの」は「明け方」のこと。

21 「あけぼの」は「明け方」のこと。

22 「あけぼの」は「明け方」のこと。

23 「あけぼの」は「明け方」のこと。

24 「あけぼの」は「明け方」のこと。

25 「あけぼの」は「明け方」のこと。

26 「あけぼの」は「明け方」のこと。

27 「あけぼの」は「明け方」のこと。

28 「あけぼの」は「明け方」のこと。

29 「あけぼの」は「明け方」のこと。

30 「あけぼの」は「明け方」のこと。

時刻を表す言葉

「あけぼの」とは、空のどんな様子を表すのだろうか。季節によつて見える方は異なるが、標準的な時間帯はその図のようになる。旧暦と新暦で季節がずれている点も注意しまよう。

季節	時刻	様子
冬	12時	曇り
春	1時	曇り
夏	2時	曇り
秋	3時	曇り

つとめて

ありあけ

あけぼの

あかつき

広範囲に明るくなり、太陽の影が弱く感じられる。5-6時で、明るさが広がり、木々の姿もはっきり見える。

4-5時で、しらしらと明け始める。

地平線にほん少し明るさが見える。

5 夏の趣のある情景として、作者が挙げているものは何か。次の各文の空欄に入る言葉を抜き書きなさい。

- 1 月の頃の情景。
2 とも、螢
3 螢が一、二匹
4 雨
5 螢が多すぎて飛ぶかたがたの情景。
6 螢が二匹
7 螢が二匹
8 螢が二匹
9 螢が二匹
10 螢が二匹
11 螢が二匹
12 螢が二匹
13 螢が二匹
14 螢が二匹
15 螢が二匹

8 「秋」の段落について、(1) この段落を二つに分けた場合、後半はどこからか。初めの五字を書き抜きなさい。
(2) この段落の前半と後半では、主に体のどの器官を使って情景を捉えているか。それぞれ漢字一字で書きなさい。

1 線部の言葉を現代仮名遣いに直し平仮名で書きなさい。
1 螢の多く飛びちがひたる (とびちがひたる)
2 はた言ふべきにあらず (とびいそぐべき)
3 飛びてそぐさへあはれなり (とびいそぐさへ)
4 闇もほほ (なほ)
5 いとをかし (おかし)
6 やうやう白くなりゆく (ようよう)
7 いと近なりたるに (ちこころ)
8 螢の多く飛びちがひたる (とびいそぐべき)
9 飛びてそぐさへあはれなり (とびいそぐさへ)
10 闇もほほ (なほ)
11 いとをかし (おかし)
12 やうやう白くなりゆく (ようよう)
13 いと近なりたるに (ちこころ)
14 螢の多く飛びちがひたる (とびいそぐべき)
15 飛びてそぐさへあはれなり (とびいそぐさへ)
16 闇もほほ (なほ)
17 いとをかし (おかし)
18 やうやう白くなりゆく (ようよう)
19 いと近なりたるに (ちこころ)

2 次の言葉は、現代では意味が変わっているもの、古典語だけに使われるものである。右の「まごめ」を参考にして、古典語での意味を書きなさい。
1 あはれ (例しむじみとした趣がある)
2 いと (例たいそう(まごめに))
3 さらなり (例言うまでもない(当然だ))
4 つとめて (例早朝(その翌朝))

5 夏の段落では、いくつかの情景について述べていますが、どの情景についてもそれぞれのよさを認めています。
8 (1) 時間の経過を表す33上②「日入り果てて」という言葉で、前後が区切られています。

(2) 前半は目に見えるもの、後半は耳に聞こえるものを描いています。
10 「三つ四つ、三つ三つ」という表現は、「二つ三つ四つ」という表現と比べてどんな効果を持っているか。次から一つ選びなさい。
ア 群れて飛ぶ迫力を感じさせる効果。
イ 思い思いに飛んでいく様子を表す効果。
ウ 空に対し鳥の小ささを感じさせる効果。
エ 鳥が果てて息づく様子を表す効果。

11 33上③「言ふべきにあらず」の意味を、書きなさい。
「言いようもない(ほど趣深い)」。

「枕草子」の春夏秋冬
清少納言が「枕草子」で切り取った春夏秋冬のよさを、感じてみよう。
春: 清少納言が「枕草子」で切り取った春のよさを、感じてみよう。
夏: 清少納言が「枕草子」で切り取った夏のよさを、感じてみよう。
秋: 清少納言が「枕草子」で切り取った秋のよさを、感じてみよう。
冬: 清少納言が「枕草子」で切り取った冬のよさを、感じてみよう。

ワンポイント解説

13 作者はその季節に似つかわしい情景を好ましく感じています。炭火が「白き灰が互」になつてのを「わろし」(「好ましくない」とするのには、炭火は赤く燃えてこそ冬らしくてよいと書き込んでいるからです。
14 「をかし」「あはれなり」は趣深い様子を表します。

15 印象的な風景を、目に浮かぶように生き生きと描写しています。

12 33上⑦「いとつきつきし」とは「たいへん似つかわしい」という意味だが、どんなときに何を指す様子か冬の前朝に似つかわしいのか。次の文の空欄に入る言葉を、現代語訳から抜き書きなさい。

- 1 たいそう寒いときに、火
2 たいそう寒いときに、火
3 たいそう寒いときに、火
4 たいそう寒いときに、火
5 たいそう寒いときに、火
6 たいそう寒いときに、火
7 たいそう寒いときに、火
8 たいそう寒いときに、火
9 たいそう寒いときに、火
10 たいそう寒いときに、火
11 たいそう寒いときに、火
12 たいそう寒いときに、火
13 たいそう寒いときに、火
14 たいそう寒いときに、火
15 たいそう寒いときに、火

13 33下⑧「火桶の火も白き灰がちになりてわろし」とあるが、それはなぜか。次から一つ選びなさい。
ア 炭火は赤々と燃えているときが華やかで美しいから。
イ 誰も火桶を片付けようとならないのが冬らしいから。
ウ 炭火は寒さの中でかつかつか燃えているのが冬らしいから。
エ 火が弱くなっていて手をかざしても暖かくないから。

14 この文章で作者の思いの中心は、をかしである。これに対して、①似た意味の語、②反対の意味の語を古文中から抜き書きなさい。
15 この文章の特徴を、次から一つ選びなさい。
ア 昔から言いなされた四季の特徴を、簡潔に紹介している。
イ 四季の特徴を、事実即ちありのままに淡々と描いている。
ウ 女性だけがめぐる四季の特徴を、わかりやすく述べている。
エ 四季の特徴的な美しさを、鋭い感覚で生き生きと描いている。

平安時代の宮中の女性は漢詩の素養も必要だった。雪の朝に中宮定子から「香炉の雪はどつたらうね」と傳わられた清少納言は、白居易の漢詩「香炉峰の雪は御簾を上げて見る」のくたりに思い出し、御簾を上げて見せたところ、「さすがだ」と女房たちから感心されたという逸話がある。

